

公益財団法人 メイト公德体財団便り



理事長：赤岩達重

メイト公德体財団理事長 挨拶

平素から当財団の運営に対して一方ならぬご尽力を頂きまして厚く御礼申し上げます。

今年は延期となっていた東京オリンピック・パラリンピックが、紆余曲折を経て遂に開催されました。新型コロナウイルス下ということで、色々と試行錯誤しながらの開催であったと思いますが、なんとか無事に閉会式を迎えることができました。

ボランティアを含む大会スタッフの皆様には、本当に頭の下がる思いです。

私も自宅で観戦しておりましたが、無観客であることを感じさせない、選手たちの力の入ったプレーに、思わず時間を忘れて熱中してしまいました。今回の東京オリンピックは過去最多のメダルを獲得するなど、大変見どころの多い大会でしたが、オリンピックに続いて開催されたパラリンピックも、同様に多くの見どころに溢れていました。

パラリンピックが初めてオリンピックと一緒に開催されたのは1964年東京オリンピックの時であったというのは有名な話ですが、当初は車いすの方だけが参加する大会であったそうです。そこから約60年が経過し、より洗練されたルールのもと、様々な障害を持った人が一様に活躍できる大会となって東京に返って来たことには感慨を禁じ得ません。

オリンピック・パラリンピックに出場した選手の皆様は、大会に出場することを目標として、並々ならぬ努力を続けてこられたことでしょう。

今、スポーツ少年団でスポーツに打ち込んでいる子供たちにも、何か一つ大きな目標を持って、活動을続けて行ってもらいたいと思います。

また、指導者の皆様におかれましては、子供たちが夢と目標を持ってスポーツ活動に励める場を提供できるよう、ご協力をお願いいたします。

目標に向かって努力することをスポーツを通して経験すれば、それはきっと一生の財産になると確信しております。我々もそのような場を提供するためのお手伝いができるよう、微力ながら尽力してまいりますので、皆様方におかれましては今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

メイト公德体財団が目指す人づくり

知 育

自らの可能性を信じ、知識・技術の練磨に努め自分を高める努力を重ねる。



徳 育

個性を尊重して、社会的規範、感動する心、思いやりや感謝の心など豊かな人間性を身につける。



体 育

スポーツを通じて他者と協調し心身の健全な育成につとめ共に生きる。



5つの誓い

1. さわやかな挨拶をします
2. 思いやりと感謝の心を持ちます
3. 率先して、目標に向かって常に努力します
4. 自らの可能性を信じ、知識・技能の習得に努めます
5. スポーツを通じて、心身を鍛錬し自分自身を確立します



今年（2021年度）助成金 採択団体のご紹介

今年度の助成団体(全15団体)を以下にご紹介致します。

< ご紹介内容 >

団 体 名

児童数	年間試合数(練習試合数・大会での試合数)
練習曜日	1回の練習時間 練習の参加率
最近の主な活躍	

バレーボール

ソフトボール・サッカー

軟式野球

備前市		
シャイニィ瀬戸内VBC女子		
10名	25 試合 (15試合・10試合)	
火・木・土・日	2 時間	100 %
OHK新人戦 ベスト8 他		

津山市		
高野スポーツ少年団		
14名	14 試合 (3試合・11試合)	
水・土・日	3 時間	90 %
東部ソフトボール大会 準優勝		

赤磐市		
山陽チャレンジーススポーツ少年団		
17名	57 試合 (35試合・22試合)	
土・日	3 時間	100 %
ろうきん杯 岡山県大会出場 他		

ミニバスケットボール

剣 道

岡山市		
竜之口スポーツ少年団		
10名	30 試合 (20試合・10試合)	
火・金・土・日	3 時間	100 %
岡山県ブロック別大会 準優勝 他		

岡山市		
陸南ミニバスケットボールスポーツクラブ男子		
26名	80 試合 (40試合・40試合)	
火・水・金・土	2時間	95 %
公式戦出場、清掃奉仕活動実施 他		

津山市		
久米剣道教室		
30名	9 試合 (7試合・2試合)	
水・金	2 時間	90 %
岡山県集大成大会 準優勝 他		

ソフトボール・サッカー・剣道

和気町		
佐伯バレーボールスポーツ少年団		
10名	15試合(0試合・15試合)	
月・水・金	2 時間	90 %
赤磐市交歓大会 優勝 他		

岡山市		
岡山西南		
21名	98 試合 (78試合・20試合)	
火・金・土・日	3 時間	98 %
地域清掃活動 実施		

津山市		
秀実スポーツ少年団		
37名	120 試合 (60試合・60試合)	
土・日	3時間	80 %
津山市大会 優勝 他		

ソフトボール・サッカー・ミニバスケットボール

ダンス

美作市		
作東バレーボールスポーツ少年団		
18名	25 試合 (10試合・15試合)	
木と隔週水・土	2 時間	90 %
美作市大会 出場 他		

津山市		
弥生スポーツ少年団		
12名	24 試合 (6試合・18試合)	
土・日	3～4 時間	95 %
北陵学区交歓大会準優勝 他		

吉備中央町		
Frou Frou Kids 吉備中央		
43名	2 ステージ	
水・日	1 時間	95 %
ステージ自主開催 171名動員		

バレーボール・駅伝・その他

サッカー

吉備中央町		
御北バレーボールスポーツ少年団		
6名	10 試合 (0試合・10試合)	
月・木	2 時間	100 %
優勝 6回 他		

備前市		
日生・三石バレーボールスポーツ少年団		
23名	3試合(0試合・3試合)	
水か木	2 時間	80 %
備前市大会 2位		

美咲町		
旭スポーツ少年団女子サッカー部		
7名	10試合(5試合・5試合)	
水・土	3 時間	100 %
美作大会 準優勝		

前年（2020年度）助成団体の活動報告

《2020年度の助成団体（全15団体）》

- 御野スポーツ少年団バレーボール部
- 吉井スポーツ少年団
- 伊島スポーツ少年団 ソフトボール部
- 峰南ジュニアバレーボールクラブ
- 伊島スポーツ少年団ミニバスケットボール部 伊島Twinkles
- 上市コスモスポーツ少年団
- 誠道スポーツ少年団

- 日比ミニバスケットボールスポーツ少年団
- 高梁クライミング少年団
- 加美スポーツ少年団
- 久米南スポーツ少年団
- 旭スポーツ少年団 サッカー部
- 柵原スポーツ少年団
- とよのバレーボールスポーツ少年団
- 賀陽 Jr. BBC

《2020年度活動評価・報告》

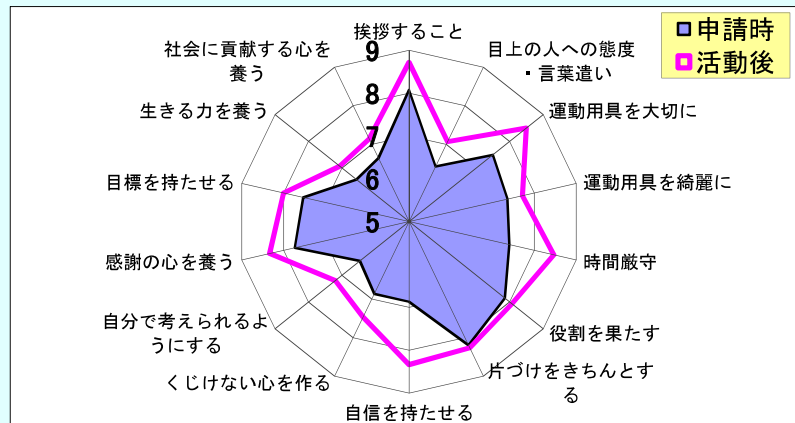
スポーツ以外で重視していることについての点数付けを10点満点で行っていただき、それを平均したものが右の表です。
申請時(2019年度)と活動後(2020年度)でそれぞれ評価していただいたところ、ほとんどの項目で点数が上昇しております。

《練習・試合の状況(15団体平均)》

- 練習日数：2.6日/週
- 参加率：89%
- 2020年度試合数：20試合

《練習・試合以外の活動》

- 駅伝参加
- 体験会実施
- 合宿
- 老人会との交流
- 清掃ボランティア
- 親子試合



前年（2020年度）の主な活動報告

2020年5月15日 理事会開催
2020年5月25日 評議員会開催
2021年2月8日 理事会開催
2021年2月15日 評議員会開催
 ※感染症対策のため、理事会・評議員会は書面決議にて実施いたしました。

令和2年度 スポーツ少年団活動助成

助成団体 **15団体** 助成金額 計 **1,766,710円**

今年（2021年度）の事業

1. スポーツ少年団への助成事業

助成対象 15団体 助成金額 1団体あたり12万円以内

新型コロナウイルス感染拡大を受け、今年度の記念講演会は中止とさせていただきます。

来年度の実施に向けて、現在感染対策などを検討中です。





活動を振り返って (2020年度助成団体 感想文のご紹介)



(児童)

私が今年頑張ったことは、コロナでバレーの練習ができなかったときに、コーチが出してくれたフットワークや基礎練習などの課題です。

毎日、近くの公園や河原の橋の下でやっていました。自主練だと、少し寂しくなるときもあり、早くみんなと体育館で練習したくなりました。

私の夢は、キャビンアテンダントになることです。コロナで学校が休みの時に、バレーの自主練習以外でも目標を作りたいと思い、キャビンアテンダントになるために英語検定4級に挑戦することを決めました。単語を覚えたり、過去問題を何度も繰り返し解いたりして勉強し、8月に合格することができました。嬉しかったです。

(児童)

ぼくはキャプテンをしています。チームの中で一番うまいわけではないけれど、やる気は一番あります。だから自信を持ってサッカーに取り組みたいです。

下級生が困っている時は、声を掛けて一緒に練習に取り組みたいです。

これからたくさん試合があると思います。

コロナで去年と同じようにはできないかもしれないけど、ぼくは今年度で最後なので、悔いが残らぬように頑張りたいです。

(児童)

私は、7年生からバスケットをしています。私がバスケットをしていて良かったことは、友達がたくさん作れたことです。練習が終わった後、みんなで遊んだりすることができるようからです。

また、一番良かったことは、メダルや賞状、トロフィーなどがもらえたことです。

他に良かったことは、挨拶ができるようになったことです。朝、挨拶をすると、今日の一日がわくわくしてきます。挨拶ができるようになると、人とお話するときに、大きな声を出して話ができるので、相手も聞きやすくて、すぐお話が進むので楽しくなります。

(指導者)

2020年は新型コロナウイルスの影響で多方面に渡り大変な年となりました。

こういった中、サッカーの指導をしていく上で個人的に意識していることは、サッカーの技術の向上、人間性の成長、コロナ禍で受けている子供達の精神的苦痛の緩和です。

子供達が自粛疲れのストレスから解放されるようにトレーニングでは工夫をし、作業気味になりがちなコンドリブルやマークドリブルは控え、広い空間での自由なドリブルとボールタッチ、サッカーの基本である止める蹴るのパス&コントロール、遊び心と発想の切り替えを養うおにごっこ等を行っています。

まだまだ手探りではありますが、コロナ禍での指導は個人的にもチャレンジすることがたくさんあり、子供達と共に成長できれおとポジティブに考えています。

(指導者)

私が今のチームを作ろうと思った理由は、バレーだけが上手でも大人になって生きて行く事はできないと感じたことが始まりでした。今まで大会等でいろんなチームを見てきましたが、強くても嫌ができていないチームを見た時にすごく残念な気持ちになったからです。

チームとしての行動、各個人の行動と発言はチームを映し出す鏡であると思っています。大きな声で挨拶をする事、靴を揃える事、整理整頓ができる事、規則を守って行動する事等の当たり前の事を小学生のうちに身につけておくことが必要だと感じています。

私がスポーツを通じて子供たちに伝えたいことは、子供たちが大人になって社会に出た時に困らないよう、人間性を養うということです。バレーボールという競技に打ち込むことで、次の人へボールを繋ぐという形で他人への思いやりを持ってほしいと考えています。

(指導者)

今年度最も悩ましかったのは、コロナ禍の影響でチームの活動が大きく制限を受けたことです。県大会を始め、私的なカップ戦や交流試合も軒並み中止となってしまいました。

ただし、こうしたコロナ禍において悲観的な考え方はかりでもなく、選手達にとっても日々の検温や練習前後の手洗い、アルコール除菌、ソーシャルディスタンスの意識が自然と身に付き、何よりも練習ができることの喜びを実感してくれるようになってきました。

今後も当面ウィズコロナの中での活動が避けられませんが、試合や練習などができることの有難さを感じつつ、より効率的かつ効果的な練習メニューや指導方法を日々熟慮し、引き続きバスケットボールというスポーツを通じて、子供たちの人間形成・育成支援に資する指導を行っていきたいと考えています。

ー 公益財団法人 メイト公徳体財団 ー

住所 / 〒709-0514 岡山県和気郡和気町佐伯526-3 (株)メイト内

TEL / 0869-88-0243 FAX / 0869-88-0248

担当 / 後谷・兼田

ホームページ / <http://www.mate.or.jp/>

※来年度より、助成団体の募集要綱が一部変更となる予定です。

募集開始時(2022年2月予定)にホームページにてお知らせいたしますので、ご応募の際はご確認願います。